

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第70回理事会議事録

日時:令和5年2月3日(金) 15:30~17:30

開催:ZOOMによるWEB会議

出席者:大賀 正一(理事長)、菱木 知郎、真部 淳(第65回学術集会会長)小川 千登世、奥山 宏臣、塩飽 仁、多賀 崇、高橋 義行、滝 智彦、藤 浩、家原 知子、大植 孝治、加藤 元博、木下 義晶、富澤 大輔、山崎 文之、義岡 孝子、余谷 暢之(以上理事)
 淵本 康史、堀 浩樹(以上監事)
 足立 壮一(第66回学術集会会長)
欠席者:越永 従道(第64回学術集会会長)

冒頭に、本日の理事出席者数は理事18名中18名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、理事大賀 正一は議長となり、議長席に着き審議に入った。

I. 前回理事会議事録(案)の確認

議長より、社員総会議事録(案)、前回議事録(案)が示され、議場にその承認が求められたところ、異議なく承認された。

II 審議事項

1. 入会申請者の件

庶務・財務委員会の菱木担当理事より、現在の会員数の報告とともに、入会申請者が示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

2. 学術集会抄録集のペーパーレス化について

庶務財務委員会 菱木担当理事より、抄録集のペーパーレス(電子化/アプリの導入)について資料を元に提案され、議場にその承認が求められたところ、第65回学術集会より、抄録集の電子化(アプリ導入)が異議なく承認された。

初回契約は3年を目安とする。ただし、実際に契約するアプリ会社は庶務財務委員会で相見積もりを取るなどし、再度アプリ会社を検討していただくこととなった。

- ・アプリ(本棚形式)の契約は学会本体が行い、費用は学会本体負担とする
- ・本棚形式のアプリを契約(学会本体で契約、大会時の作成・運用は大会校及び編集事務局) + 学術集会ではポケット版のプログラム集を作成し、アプリと併用する
- ・名誉会員宛などの配布用抄録集を従来通りの体裁で限定数作成することを要検討
- ・抄録集のPDF版の有効活用を要件等
- ・ポケット版のプログラム集は大会校で作成・費用負担とする
- ・アプリの広告機能による収入は学会本体の収入とする

3. 第64回学術集会優秀ポスター賞選定について

学術集会プログラム委員会 家原担当理事より第64回学術集会優秀ポスター賞に選定された15演題が資料として示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

4. 教育セッション3か年計画について

教育研修委員会 大植担当理事より、2023年度から2025年度までの教育セッション3か年計画について資料と共に示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

5. 2023年度教育セミナーの共催について

教育研修委員会 大植担当理事より、2023年度の教育セミナー(2023年7月開催)について、前年同

様に中外製薬株式会社からの共催申込みが示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

6. がんゲノム医療に関する包括契約について

教育研修委員会 大植担当理事より、新たに企業へ提示する「がんゲノム医療に関する包括契約」の契約書案が示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

7. 日本小児科学会第12回インテンシブコース講師について

教育研修委員会 大植担当理事より、日本小児科学会からの推薦依頼を受けて選出した第12回インテンシブコース講師について示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

8. 地区セミナーの地方会への格上げについて

大賀理事長より、地区セミナーの地方会への格上げについて提案され、2023年度は地方会への格上げを視野に入れ、若手の参加も促し、各地の研究会で地域の特性を活かしながら地区セミナーの開催をしていくことが承認された。

9. 「骨髄微小残存病変量測定」検査施設の認定について

保険診療委員会 小川担当理事より、「骨髄微小残存病変量測定」検査施設の更新について保険診療委員会での審査結果が示され、4施設(保険医療機関1施設、衛生検査所3施設)の更新(2023年4月1日～2024年3月31日)について、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

10. 各賞の規約について

学会賞等選考委員会 加藤担当理事より、委員会で整理・作成された「学術賞」「小児がん病態研究学術奨励賞規約案」「大谷賞」の各規約が示された。次回理事会までに規約委員会で審査し、次回理事会で最終審議を諮ることとなった。

11. 日本小児血液・がん学会研究基金創設について

大賀理事長より、以前より理事会の議案に挙がっていた過去の学術集会からの基金を元に、若手を対象とする研究基金の創設について示され、学会賞等選考委員会で規約案を作成し、規約委員会で整え、次回理事会で諮ることとなった。

なお、第65回学術集会で第1回の受賞者を発表、もしくは、創設した研究基金について発表することとなる。

12. サブスペシャリティの認定について

大賀理事長より、日本専門医機構のサブスペシャリティの申請については、患者会へ要望書の提出を依頼し、追加提出することが異議なく承認された。

13. 寄付申請について

大賀理事長より、企業1社からの寄付申請について資料が示され、議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

14. 「小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン」「小児がん診療ガイドライン」の改訂について

診療ガイドライン委員会 多賀担当理事より、現在改訂作業中の「小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン」「小児がん診療ガイドライン」を1冊にまとめ、「小児がん(血液腫瘍・固形腫瘍)診療ガイドライン2023」と改めることとして議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

15. 学術集会の演題登録に伴う倫理的手続きに関する指針について

倫理委員会 義岡担当理事より、学術集会の演題登録に伴う倫理的手続きに関する指針について倫理委員会にて見直しを行ったことが資料と共に示された。

これに伴い、第65回学術集会より、倫理審査委員会等の承認が必要な研究についての発表について

は、演題登録時に各施設での承認を得ていることを必須とすることとして議場にその承認が求められたところ異議なく承認された。

16.次回以降理事会日程について

<今後の定例理事会日程>

・7月21日(金)、11月24日(金)、2024年1月26日(金)、3月22日(金):15:00~17:00

・9月28日(木)14:00~16:00※学術集会前日

<社員総会日程>

・定時社員総会:6月30日(金) 15:00~16:00

・学術集会社員総会(臨時社員総会):9月29日もしくは30日/※現地開催予定

Ⅲ. 報告事項

1.

委員会報告

1)学術集会プログラム委員会より報告事項

学術集会プログラム委員会 家原担当理事より、本年9月29日~10月1日に開催される学術集会の準備を現地実行委員会と共同して行っており、例年より開催時期が早いため全てを前倒しで進めていること、及び、下記について報告された。

- ・第65回日本小児血液・がん学会学術集会のHPを公開し、上級演題、要望演題のプログラム編成を進めている。
 - ・演題登録に伴う倫理的配慮に関しては倫理委員会に整備を依頼
 - ・第64回学術集会から開始した JCCG・JSPHO との合同企画については、第65回学術集会でも継続して実施する。(3年間実施予定)
 - ・今後の演題募集などのスケジュール
 - 2月15日演題登録開始、抄録1次募集〆切を3月末
 - 4月上旬査読
 - 4月優秀演題の選定
 - 5月プログラム確定
 - 6月上旬入稿
 - 8月上旬校了
- ※今後直近の委員会は2月、4月、5月に開催予定
*学術集会抄録集のペーパーレス化の決定により、上記スケジュールの変更があり得る

2)専門医制度委員会より報告事項

専門医制度委員会 富澤担当理事より、2023年度の専門医試験について下記の通り報告された。

①専門医試験関係

- ・暫定指導医制度の期限切れに伴い、暫定指導医資格での受験が消滅。関連するHP文面の修正作業中(2月末頃完了予定)。
- ・2023年度専門医・認定外科医試験日程:9月16・17日(土曜:筆記試験 日曜:面接試験)で決定
- ・2023年度専門医・認定外科医試験問題の作成作業中
2022年度合格者による問題作成を進めており、トータルケアや倫理・研究などの一部問題は非会員も含む専門家に依頼する。3月~5月に問題選別および内容修正。認定外科医問題は小児がん認定外科医試験 WG メンバー及び認定外科医から選抜した先生方で作成する。なお、認定外科医問題についても専門医問題と同様に、機密保持の観点から学会支援機構のweb提出システムを利用する。6月10日、11日にブラッシュアップ会議。
- ・小児がん認定外科医について
2022年の試験の難易度が高かったため、各出題範囲の比率を変更する。

- ・小児がん認定外科医について、更新認定、新規申請の規程等について今年1年かけて見直しを行う。
- ・専門医試験改革
血液専門医資格保有者の免除規定の廃止：規則(第3章第15条)の変更が必要。一定の告知期間も必要。2023年中に準備・告知を行い、2024年度からの実行を目指す。
- ・領域指導医問題：規則24条に記載されている脳外科医や整形外科医を想定した制度。過去に申請の実績なし。制度として意義も含めて再考が必要。
- ・CBT(Computer Based Testing)の導入：コストなどが決まったら学会支援機構から説明される予定である。

②専門医研修施設

専門医研修施設変更申請の整備：認定期間中に関連研修施設(子施設)から認定研修施設(親施設)への変更希望があった場合の対応について。

- ・子施設からは新たに認定研修施設の申請を行った上で、研修カリキュラムを提出してもらおう。
- ・子施設が所属していた親施設から新たな申請は不要だと考えるが、研修カリキュラムの改訂と“変更届”の提出を行う。”変更届”は作成中。
- ・更新は、新規申請の時期に一括、年に1度にする(4月1日～31日)。

※現況調査：毎年5月に実施する調査の第1回を2023年に実施。調査票作成中。

③機構サブスペシャリティ領域専門医への申請

- ・新規のサブスペシャリティ領域専門医の募集が日本専門医機構で開始されており、日本小児科学会からは当学会を含めて5領域(神経、循環器、血液・がん、臨床遺伝、新生児)で機構認定を目指すことが合意されている。
- ・1月23日 小児科学会事務局内のサブスペ連絡協議会にレビューシートを提出。
- ・2月7日 サブスペ連絡協議会開催(当学会からは富澤と長谷川大輔委員長が委員として参加)。
- ・2月16日 小児科学会事務局より機構にレビューシート提出。

3)保険診療委員会より報告事項

専門医制度委員会 小川担当理事より下記について報告された。

- ①カブリビ注射用10mg の製造販売後調査への協力依頼について。
- ②令和6年度診療報酬改定における日本小児感染症学会との共同提案について。

IV.理事長報告

1)第31回日本医学会総会加盟学会展示について

第31回日本医学会総会加盟学会展示については、第64回学術集会での理事長報告資料などを元に大賀理事長がご作成されたものを医学会総会へ提出したことが報告された。

2)指定難病について

大賀理事長より、厚生労働省への指定難病の申請について、成人を対象とする学会と小児系の学会の両学会からの診断基準と重症度分類の学会認定が必要となることが改めて確認された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、出席した理事長及び監事がこれに記名押印又は署名する。

令和5年2月3日

日本小児血液・がん学会 第70回理事会

理事長 大賀正一

監事 堀浩樹